

数 学

(分析は一般入試Aの問題のみです)

出題傾向

※第4問は【数学Ⅰ・数学A】または【数学Ⅱ・数学B】のどちらかを選択

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/3	第1問	数学Ⅰ・A 数と式／整数の性質／データの分析	標準
	第2問	数学Ⅰ 2次関数	標準
	第3問	数学Ⅰ・A 図形と計量／図形の性質	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅰ・A 場合の数／図形と計量／図形の性質	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅱ・B 数列／三角関数／微分法	標準
2/4	第1問	数学Ⅰ・A 場合の数／数と式／データの分析	標準
	第2問	数学Ⅰ 2次関数	標準
	第3問	数学Ⅰ・A 図形と計量／図形の性質	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅰ・A 場合の数／図形と計量／図形の性質	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅱ・B 微分法／積分法／対数／ベクトル	標準
2/5	第1問	数学Ⅰ 数と式	基礎
	第2問	数学Ⅰ 2次関数	標準
	第3問	数学Ⅰ データの分析	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅰ・A 図形と計量／図形の性質／場合の数	標準
	第4問 (選択)	数学Ⅱ・B 微分法／積分法／数列	標準

●出題形式

試験時間は2科目で120分なので、数学にかけられる時間は概ね60分である。出題形式は、すべてマークシート方式で、大問を4題解答することになる。第1問～第3問が必答問題で【数学Ⅰ・数学A】からの出題、第4問が【数学Ⅰ・数学A】、【数学Ⅱ・数学B】の2題から1題を試験会場で選択解答する形になっている。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学B（【数学Ⅱ・数学B】の問題は【数学Ⅰ・数学A】との選択が可能）

b. 出題内容

第1問～第3問は必答問題で数学Ⅰ・Aの全範囲からまんべんなく出題されている。第4問は【数学Ⅰ・数学A】と【数学Ⅱ・数学B】の選択問題だが、【数学Ⅰ・数学A】は「場合の数と確率」／「図形と計量」＋「図形の性質」、【数学Ⅱ・数学B】は数学Ⅱから1問、ベクトルか数列から1問出題されている。

●問題の傾向と解答形式

2022年度入試の必答問題は全日程とも第1問：小問集合、第2問：単独テーマ問題、第3問：単独テーマ問題の構成である。第4問の選択問題は問1、問2に分かれ、それぞれテーマを絞った出題になっているが、2月5日の【数学Ⅱ・数学B】の問1のみ(A)(B)の中間形式であった。

●難易度

【数学Ⅰ・数学A】の難易度は、2018年度までは、やや易～標準のレベルであったが、2019年度以降はやや易の問題が減り、ほとんどが標準レベルとなった。また、出題単元の偏りは無く、バランスの良い出題になっている。ただし、問題によっては計算量が多く、試験時間内で全問を解答するためには、時間配分が重要になってくる。特に、「データの分析」の問題には複雑な計算が伴うことがあるので注意が必要である。

選択問題の【数学Ⅱ・数学B】の難易度は、2021年度までは、標準～やや難レベルであったが、2022年度は概ね標準レベルであった。出題単元は、問1、問2の一方が数学Ⅱ、他方が数学Bから出題されている。教科書の章末問題以上のレベルの問題もあり、典型パターンの解法暗記だけでは完答しにくい問題も見られた。

数 学

(分析は一般入試Aの問題のみです)

学習対策

概ね60分の試験時間で大問4題を解答する問題構成は、旧センター試験と類似しているが、試験時間に対して問題量は多めであるため、時間配分を含めて対策が必要である。

●基礎固めから始めよう

相山女学園大学の試験問題は、標準レベルの問題が中心であるため、教科書の内容をしっかりと理解し、定理や公式を正確に使うことが合格への第一歩となる。まずは、基本事項の確認からスタートしよう。教科書の章末問題を一通り自力で解けることが1つの目標である。また、教科書による演習と並行して教科書傍用問題集によるトレーニングも効果的である。傍用問題集で解けなかった問題は教科書に立ち返って確認するようにし、わからない部分があれば学校の先生などに質問してみよう。これを繰り返すことで、基礎力は完璧になる。わからないままにしておくことは最も危険である。

●実戦力を身につけよう

次に、実戦力を身につけよう。第2問以降の単独テーマ問題の中には、見慣れない設定のものもあり、典型問題の演習だけでは太刀打ちできない可能性がある。この部分の対策に関しては、大学入学共通テスト・旧センター試験の過去問や、マーク試験対策用の問題集によるトレーニングが難易度としてもちょうどよいだろう。また、模擬試験の解き直しも有効である。

相山女学園大学の入試では、「データの分析」からの出題が多くみられる。「データの分析」については、高校の授業での演習量が少ないために、苦手とする受験生が多い。マーク試験対策用問題集などで十分に対策しておきたい。

また、近年の入試傾向の1つに「計算力を試す」ことがあげられる。計算力は、普段の取り組み方・姿勢がそのまま表れるものなので、日頃の計算ミスで「ミスをしただけ」と片付けるのではなく、『何故ミスをしたのか』を自分で考え、対策を講じていくことが肝要である。

●最後に

相山女学園大学の入試では第1問～第3問が【数学Ⅰ・数学A】からの出題、第4問が【数学Ⅰ・数学A】、【数学Ⅱ・数学B】からの選択問題になっている。そのために、数学Ⅰ・数学Aのみの学習で受験することが可能であるが、数学Ⅰの数と式、2次方程式については、数学Ⅱの「式と証明」および「複素数と方程式」の単元を学習している方が有利な場合があるなど、数学Ⅱ・数学Bまで学習するメリットは存在する。予め数学Ⅰ・数学Aのみでの受験を考えている受験生は注意してほしい。

最後に、過去問の演習を通して、大問の解答の順番や大問ごとの解答時間のシミュレーションをしておこう。特に、第1問は小問集合で問題量が多いので、第1問の時間配分はしっかり考えておくべきである。

以上の準備がすべて整えば、結果は伴ってくるはずである。健闘を祈る。